

東日本大震災復興支援-----引き続き、みんなで支援しましょう！

風のアンサンブル事務局 / 〒156-0042 世田谷区羽根木 1-25-10 ☎03-3324-1776 / FAX03-3324-3672

Mail ; canon0607@accordion-e-air.jp ホームページ <http://accordion-e-air.jp/index.html>

気仙沼にアコーディオン 2 台を届けに！！ 2/17～19

大震災から一年を迎えようという 2 月 17 日、アコーディオン 2 台、他の支援物資を携えて一行 9 人がレンタルのワンボックスカーで気仙沼に向かいました。出発時の東京は雪が舞い、東北では深夜に零下 7 度を超える寒い夜でした。

保育施設 2 カ所で演奏

現地ではキッズルーム「おひさま」と気仙沼第二保育所に楽器を届け、演奏と紙芝居で慰問を行ってきました。各所で 40～50 名の子どもたちと職員、父母に歓迎され、パフォーマンスを一緒に楽しんだ至福のひと時。音楽と楽器という共通の趣味をとおして結ばれた仲間が、被災地に向かい、復興支援という目標を達成した貴重な体験でした。

一行参加者：川口裕志、後藤広一、後平滯子（以上羽根木）、菊地毅（三多摩教室）、倉田美穂、高橋伸幸（以上 SAC）、勝俣友子、勝俣静雄、霜島義和（以上稲城）



この支援ツアの模様を本紙に連載で掲載して報告いたします。

気仙沼へアコーディオンを！

勝俣静雄

気仙沼の託児施設「おひさま」を訪ねたのは、土曜日の午後 3 時過ぎで、子どもたちはお昼寝からちょうど起きたところであった。まず友子さんの紙芝居「おむすびころりん」で始まった。おじいさんが、おむすびを穴の中に落としてしまって、「おむすびころりん、すつとんとん」と歌われると、子どもたちはすっかりストーリーに引きこまれていった。

アコーディオンの演奏は、子どもたちも知っている、「元気になれそう」（魔女の宅急便より）、「いつも何度でも」（千と千尋の神隠しの主題歌）とつづき、「森の熊さん」や「チューリップ」はみんなで楽しく歌った。子どもたちにとっては 6 台のアコーディオンの大合奏など初めての経験であろう。物めずらしくて演奏している人をのぞきにくる子もいてなんとも微笑ましかった。

「おひさまのみなさんに、プレゼントがあります。」 後藤さんのやさしい呼びかけに、子どもたち

は、いっせいに箱のまわりをかけ寄った。「高く掲げるから座って見てね。」といっても押しあいをしている。そのとき、「みんな座って！」と鋭い保育士さんの声、ようやく20人ほどの子どもたちは座って箱をかこんだ。

まず取りだされたのは黒い四角なケース。いったい何が入っているのだろう。子どもたちは心を躍らせている。つぎにケースからとりだされた赤い小型のアコーディオン。全員目を輝かせ、驚きの表情である。さっき聞いた不思議な楽器を手にして、子どもたちは、みんなうれしくてはずんでいる。

昨年12月のVITAコンサートでの多くの方の温かい支援が、この赤いアコーディオンになって、ついに



子どもたちのところに届いたのである。川口先生をはじめアコーディオンエアの人たちの、これまでの長い地道な努力が、ついにここに実を結んだのだ。その努力を思うと頭の下がる思いがした。そして東京から11時間かけて運んできた甲斐があったと思った。

プレハブ倉庫の20畳・30畳の2部屋を使った無認可託児施設「おひさま」に登録されている園児は、40人にも達している。しかし有資格の保育士はわずか3名で、1歳児から5歳児までを、朝7時から6時まで保育している。超いそがしくて、数名のボランティアに頼らざるを得ないのが実情であるという。ここの園児たちの親は、多くが仮設住宅に住んでいるという。きびしい生活の状況が想像され、そういう中で、「おひさま」の果たしている役割は非常に大きいものがある。三人のうちの1人の保育士さんが、学生時代にアコーディオンを演奏していたと聞き、ひとまず安心した。アコーディオンが「おひさま」で大活躍するのを想像するだけで、わがことのようにうれしくなった。(次号に続く)



✿ 先日は素晴らしい演奏会 ありがとうございました。皆元気で頑張っております。

